

皆様に親しまれる景観を目指して

とくしまみなみかんじょうどうろ
～ 第3回 徳島南環状道路 景観検討委員会の開催について～

1. 概要

徳島河川国道事務所で整備を進めている徳島南環状道路について、多くの方に親しまれる道路空間を創出するために道路景観を検討する「徳島南環状道路 景観検討委員会」の第3回を開催します。

2. 開催日時、場所

開催日時 :平成 19年 11月 19日 (月) 13:30～ 16:00

開催場所 :国土交通省徳島河川国道事務所

今回の委員会での議題

- ・観音寺高架橋・鮎喰新橋の基本形式及びデザイン案
- ・上八万トンネル坑口のデザイン案
- ・附属施設の基本方針
- ・鋼製橋梁の色彩検討

過去の委員会では、景観整備方針及び景観検討項目の確認をはじめ、鮎喰川渡河橋梁や文化の森総合公園周辺等での景観への配慮事項や橋梁における色彩計画等について議論されました。

なお、委員会は常時傍聴可能ですが、撮影につきましては冒頭のみとさせていただきます。実施後は協議内容をホームページにて公表することで、広く地域の皆様のご意見を募集し、今後の景観検討の参考としていきたいと考えています。

URL : <http://www.toku-mlit.go.jp/road/b/jigyou/tokusimaring/keikan/index.htm>

平成 19年 11月 15日 (予定)

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

【問い合わせ先】

徳島河川国道事務所

副所長 おかむら 岡村

TEL :088-654-2211 (代表)
たまき 環

徳島河川国道事務所

道路調査第一課 いしはら 石原
課長

TEL :088-654-9612 (直通)
まさのり 雅規

徳島南環状道路景観整備方針

景観整備テーマ

~ MIZU MIDORI M I R A I MINAMI 水と緑と未来をつなぐ 南環状道路 ~

主 旨

徳島市の交通利便性の向上はもとより、市の発展を担う徳島外環状道路の一端を形成する本路線の計画は機能性のみならず、眉山に代表される自然景観資源を街の発展に活かすことが望まれる。

本路線の計画にあたっては、徳島外環状道路の中でも自然豊かな景観をもつ地区を通過することから、市民や来訪者に都市の顔とは異なる一面を体感する路線として位置づけるとともに、構造物等の計画にあたっては、周辺住民が日々の生活で享受している美しい景観を阻害しない構造物シルエットの構築を目指すとともに、道路利用者に豊かな自然景観への眺望を提供する道路空間創りを目指す。

全体方針 1 :

「周辺景観に融け込む構造物整備」

主役となる周辺景観から突出せず、周辺に圧迫感を与えないシンプル・スレンダーな構造物を目指すと共に、時間の流れにより周囲に馴染み、融け込む構造物整備を目指す。

全体方針 2 :

「豊かな自然を道路利用者に提供する道路空間創り」

眉山をはじめとする山並みや鮎喰川等に代表される美しい景観を地元利用者、来訪者に提供し、豊かな表情を持つ徳島を体感できる開放感、眺望性を備えた道路空間を目指す。

全体方針 3 :

「ゾーン毎の特性を活かしながらの一貫性の確保」

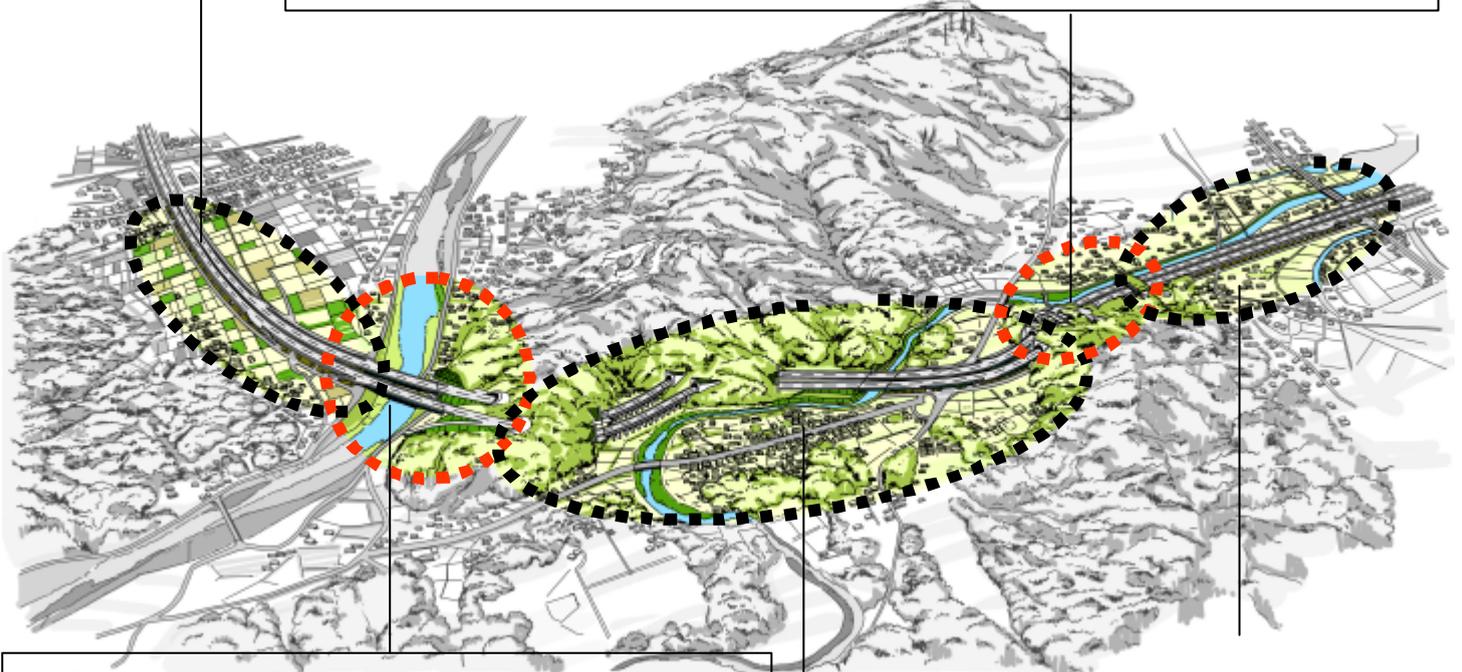
路線のゾーン毎の特性を活かしつつ、統一感や一貫性のある整備を行うことで、本路線の道路利用者及び本路線と交通網を形成する国道利用者等に対する演出を行う。

ゾーン1 : 「開けた空間の田園ゾーン」

基本方針：開けた田園空間であるため、広範囲から高架橋が眺められる。そのため、桁の連続性や水平性に着目して基本となる高架橋のシルエットを整えると共に、側道利用者や沿道住民への圧迫感や橋脚の重なりによる桁下の閉塞感を極力軽減する橋脚シルエットを目指す。また、延長が長く単調な空間となりがちな歩道空間に潤いを与える緑化を目指す。

ゾーン4 : 「市民が集う文化の森ゾーン」

基本方針：総合文化施設である文化の森総合公園は桜並木をはじめとする豊かな自然を活かした公園として市民に親しまれている。この周辺は園瀬川左岸の県道から眺められるため、構造物の人工的な印象を極力隠蔽すると共に、文化の森総合公園付近の規模が大きな造成は周囲の地山との馴染みを図るため、自然植生の復元を目指す。

**ゾーン2 : 「河川空間ゾーン」**

基本方針：開放的な鮎喰川の河川空間に右岸の僧津山の山裾が迫る空間で、河川軸に沿って視界が開ける場所である。そのため、渡河橋梁は水平方向を強調したシンプルなシルエットを目指す。また、僧津山のIC部の造成は周辺の地山との馴染みを図るため、自然植生の復元を目指す。

ゾーン5 : 「市街地に隣接する園瀬川併走ゾーン」

基本方針：園瀬川にほぼ並行し、同じく対岸の県道とも平行しているため、高架橋全体が眺められる。そのため、桁の連続性や水平性に着目して基本となる高架橋のシルエットを整えることを目指す。また高架橋南側は市街地に近いことから今後、住居等が増えることが予想される。そのため、近隣地域からの眉山への眺望を阻害しない透過性の高いシルエットを目指す。

ゾーン3 : 「山々と田園に囲まれた変化に富むゾーン」

基本方針：山々に囲まれた空間に比較的多く住居があるため、高架橋を至近に眺められる。そのため、至近の住民に圧迫感や威圧感を与えない構造物を目指す。また、トンネル坑口が多く見られるため、粗面テクスチャーの採用等、地山に融け込ませる壁面処理、緑化を目指す。

第1回委員会 (H19.2.27)

主な議題

事業進捗の把握

検討項目/スケジュールの提案

全体景観整備方針の策定

鮎喰新橋の橋梁形式

H18 年度詳細設計構造物の報告

文化の森周辺修景計画

第2回委員会 (H19.7.24)

主な議題

第1回委員会の確認

平成19年度検討項目について

景観整備方針(案)について

橋梁色彩方針について

第3回委員会 (H19.11.19)

主な議題(予定)

観音寺高架橋の基本形式比較案

上八万トンネル坑口デザイン

鮎喰新橋の細部デザイン

道路付属施設の基本方針

鋼製橋梁の色彩

第4回委員会 (H19.12.予定)

主な議題(予定)

観音寺高架橋の細部デザイン

上八万トンネル壁面部デザイン

鮎喰新橋の色彩デザイン

道路付属施設の細部デザイン

道路付属物の色彩

道路緑化

第5回委員会 (H20.3.予定)

主な議題(予定)

徳島南環状道路景観検討委員会とりまとめ

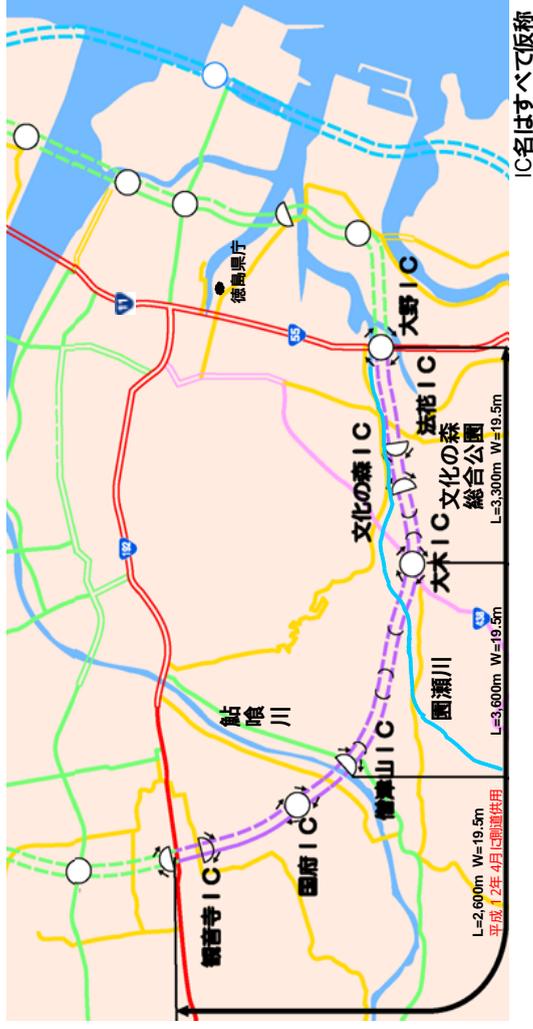
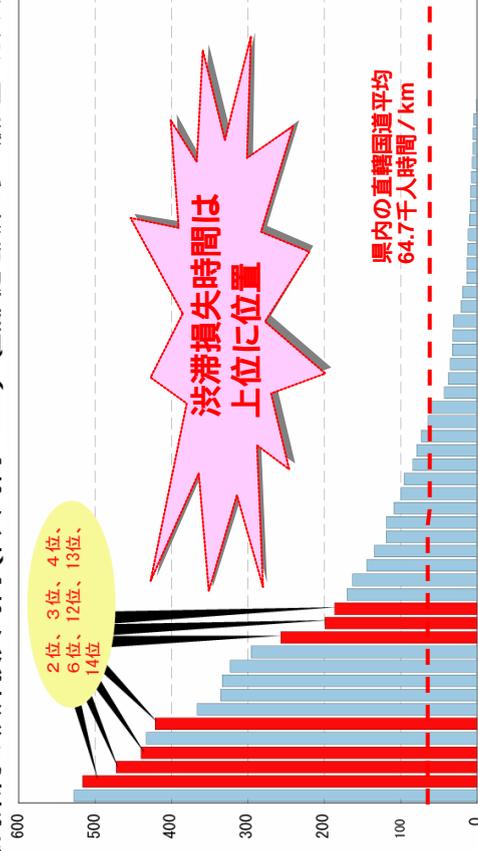
徳島南環状道路 景観検討委員会 委員名簿

	氏名	勤務先
委員長	山中 英生	徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授
委員	鎌田 磨人	徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授
	花岡 史恵	(有)環境とまちづくり
	渡辺 健	徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教
	真田 純子	徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教
	綿谷 忠雄	徳島商工会議所 専務理事
	金沢 敏雄	徳島県 県土整備部 高規格道路推進局長
	日下 正義	徳島市 開発部長

事業概要

徳島市内の慢性的な交通渋滞の緩和及び交通安全の確保を主な目的とした徳島環状道路全35kmの一部(9.5km)を構成する自動車専用道路です。こくふちようかんのんじ えんめい昭和61年度に事業着手し、現在までに国府町観音寺から延命地区における側道2.6kmを供用中です。早期の全線供用を目指して事業を推進しています。

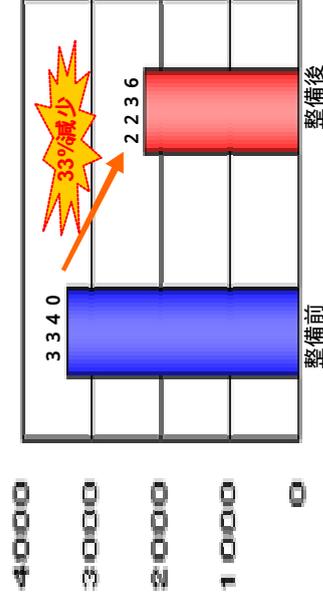
徳島県内の渋滞損失時間(千人時間/km)(直轄国道を渋滞の多い順に並べたグラフ)



事業成果

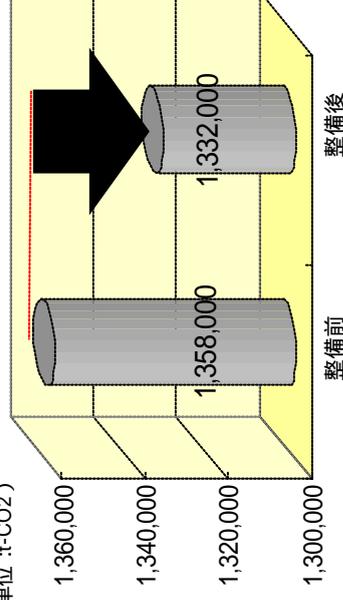
徳島南環状道路の完成によって、
渋滞損失時間が約33%減少

渋滞損失時間(万人時間/年)



徳島市中心部の渋滞が解消されれば、
CO2排出量が約26,000t-CO2/年減少

(単位:t-CO2)



約26,000t-CO2/年の
削減効果あり



森林面積にして24.1km²
徳島中央公園の面積(0.2km²)の
約121倍の森林の吸収量と同じです